

番号	研究課題名	研究概要	研究目的	研究方法	センター教員	共同研究員の条件
1	教員としての教育観とその背景にある組織のあり方を考える看護学教員向けFDコンテンツの開発と評価	<p>我々は、看護実践研究指導センター事業「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト」の一環として、教員としての教育観とその背景にある組織のあり方を考える看護学教員向けFDコンテンツを開発してきた。</p> <p>本プロジェクトは、これまでに開発したFDコンテンツを実際に活用したFDを企画・実施・評価することにより、さらに精練させていくことを目的としている。</p>	<p>全国の看護系大学の教員が、自大学の組織の現状を踏まえた教員としての教育観を確立することを支援するFD教材を開発する。</p>	<p>1) 複数の看護系大学教員を対象として、これまでに開発したFDコンテンツを実際に活用したFDを企画・実施・評価する。</p> <p>2) 以上をとおして、教員としての教育観とその背景にある組織のあり方を考える看護学教員向けFDコンテンツの精練を行う。</p>	<p>和住 淑子 教授 黒田 久美子 准教授</p>	<p>・看護学教育に関連した実践かつ研究業績がある者。</p> <p>・これまでに「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト」においてコンテンツ開発委員であった者。</p> <p>(継続共同研究員のみ)</p>
2	看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究	<p>看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究をセンター教員との共同研究により実施する。</p> <p>① 看護管理者および看護職の文化的能力の水準と特徴について検討する。</p> <p>② ①より能力開発・臨床応用に関して実証的に明らかにする。</p> <p>本プロジェクトは、看護職や病院の国際化に寄与するだけでなく、臨床現場にあって、外国人の対応に困っている看護師の指針となり、日本人患者・家族とのトラブル防止、多職種連携の推進、医療事故防止など、その波及効果は大きい。</p>	<p>病院の国際化はアジア諸国では急速に進展がみられるが、わが国は立ち遅れているとの指摘もある。そこで本研究プロジェクトにより、看護管理者および看護職の文化的能力の評価を行い、能力開発と臨床応用に資する人材育成プログラムの開発と評価を目的とする。</p>	<p>文化的能力のアセスメントツールの検討</p> <p>看護職の文化的能力に関する聞き取り調査の実施以上より作成した、アセスメントツールを用いて、看護管理者および看護職の文化的能力の評価を行う。</p> <p>分析結果に基づき、看護職の文化的能力開発と臨床応用に資する人材育成プログラムの開発を行う。</p>	<p>野地 有子 教授</p>	<p>看護職の文化的能力に関心を持ち、本テーマの推進に積極的に取り組める者。</p>

番号	研究課題名	研究概要	研究目的	研究方法	センター教員	共同研究員の条件
3	公的病院における ELNEC教育プログラムの開発	End of Life Nursing Consortium(ELNEC)教育プログラムは、米国において開発されたエンド・オブ・ライフケアについて、看護教員や臨床家向けにデザインされたものである。公的病院の特徴を踏まえた教育プログラムの開発を行う。	ELNECは複数のモジュールから構成されている。公的病院の特徴について事例を用いて検討し、教育プログラムの開発を行う。	国内外のELNEC指導者と連携し、公的病院におけるエンド・オブ・ライフケアの特徴について事例を通して検討し、ELNECのモジュールを活用した教育プログラムの開発を行う。	野地 有子 教授	公的病院に勤務する看護師、あるいは本テーマに関心のある教育研究者
4	FD コンテンツ開発 (国際) ー10～20年後を見据えたグローバル人材育成と国際交流推進ー	看護学 FD マザーマップが開発されその発展として、教育マップの中の学生支援「国際交流の推進」に焦点化したコンテンツ開発に関するプロジェクト研究である。	大学におけるグローバル人材の育成が求められている中、10～20年後を見据えた看護系大学における国際交流推進のための具体的なFDコンテンツ(国際)の開発を目的とする。	看護系大学の国際交流を担う教員等の情報交換および実態調査を踏まえ、本テーマに関する現状と課題を明らかにする。これらを基盤に、FDコンテンツ(国際)の開発を行う。開発されたコンテンツを活用して共同研究者の大学等でFDを実施・評価する。検討内容は、学生の留学(派遣と受け入れ)、外国人研究者の受け入れ、および教員の海外派遣等である。	野地 有子 教授	看護系大学の国際交流を担う教員あるいは関心のある教員。大学等で国際交流担当の事務系スタッフおよび、病院看護部において国際交流を担当している看護管理者なども含む。本テーマの推進に積極的に取り組める者。

番号	研究課題名	研究概要	研究目的	研究方法	センター教員	共同研究員の条件
5	合理的配慮を要する学生の臨地実習の質保証に向けたFDプログラム開発	障害を有する者各々の状況に応じて看護教育を受ける権利を保証するために、教員個人および組織の教育能力の開発がもとめられている。こうした社会的要請に全看護系大学が応えるように、看護学教育固有の臨地実習に焦点をあて、FD マザーマップに対応したプログラムを開発し検証する。	看護系大学において、何らかの障害を有する者にも看護学教育を受ける機会を保証し、かつ一定の教育の質を確保するために、臨地実習に焦点を当てたFDプログラムを開発する。	<ol style="list-style-type: none"> 国内の看護系大学の臨地実習における合理的配慮の実態及び教育の質保証の困難性の要因の構造を質的・量的調査をもとに解明する 生涯学習支援の観点から、教育の質保証を行うためのFDプログラム試案を作成し専門家会議等により精錬する。 FDプログラム試案を試行し、参加者・組織の認識・行動変容を質的・量的調査をもとに評価する。 評価結果をもとにFDプログラム試案を修正し完成させる。 	吉本 照子 教授	本研究課題あるいはFDに関する研究経験を有する者（継続共同研究員のみ）
6	組織の現状を踏まえた研修企画を支援する方法の開発	本共同研究では、①「新人看護師教育担当者能力自己評価票」、②自施設完成型新人看護師教育担当者育成プログラム、③新人看護師教育責任者育成プログラム等、これまでの各種研修プログラム開発の実績に基づき、看護管理者が自組織の現状を踏まえた効果的な研修企画を立案するための支援方法を開発する。	看護管理者が自組織の現状を踏まえた効果的な研修企画を立案するための支援方法を開発する。	<ol style="list-style-type: none"> これまで開発してきた、①「新人看護師教育担当者能力自己評価票」、②自施設完成型新人看護師教育担当者育成プログラム、③新人看護師教育責任者育成プログラムの活用実績を収集する。 1に基づき、看護管理者が自組織の現状を踏まえた効果的な研修企画を立案する上での課題を分析する。 看護管理者が自組織の現状を踏まえた効果的な研修企画を立案するための支援方法を開発する。 	和住 淑子 教授 黒田 久美子 准教授	平成30年度共同研究「組織の現状を踏まえた研修企画を支援する方法の開発」において、共同研究員であった者